

架線切断 問題色々！

12月18日、午後1時ごろ、東海道新幹線の豊橋～名古屋間、愛知県安城市の下り線で架線が切断（吊架線とトロリ線間の補助吊架線を切断）して停電が発生し、新幹線74本が運休し、114本が最大4時間28分遅れるなど約11万人に影響が出ました。原因は調査中ということです。

日曜日の午後とあって、ご利用のお客様には多大なご迷惑をお掛けしたことは、労働組合としても原因究明に向けて真摯に捉えなければならない課題であります。

架線切断後の運行で問題発生！

さて、今回の架線切断後の新幹線の運行に関して、色々問題が浮き上がってきました。

その一つが、新大阪到着時点から乗り継ぎ乗務員の手配ミスで30分以上遅れた列車が複数ありました。

折り返し回送列車は、お客様の乗車はありませんが、後続列車に影響し、さらに折り返えし営業列車では、新大阪発車時点で30分以上、お客様をホームにお待たせするという事象が複数の列車でありました。（のぞみ252号、のぞみ468号等）

明らかに乗務員運用のミスが発生しました。

その他、色々問題発生したと聞いていますが、ただいま調査中です！

乗務員サイドで起こした事象においてなら責任追及のあげく、掲示に掲出され、「無事故継続日数」といった、**責任追及ボード**の日数までリセットされます。

しかし、管理者や内勤のミスなら掲示すら出ることなしに、そのまま不問にされてしまっているのかもわかりませんか！？何が起こったのか会社として明確にすべきです！

いずれにしても、個人の責任を追及するのではなく、真の原因を恣意的な感情など入れずに、科学的に究明していくことが最も大切であり、それが安全を創造することではないでしょうか！

責任追及ではなく 真の原因究明を！